

1コインの外出・日常生活支援を行う坂の上のまち

北汲沢地域総合福祉活動委員会(戸塚区)

1 まちの開発経過

昭和30年代、市内でも比較的早く開発された住宅地であり、大規模な共同住宅やマンション開発は見られない。ゆるやかな斜面に二戸建て住宅地が広がり、坂道が多く、地下鉄やバス停までの距離が最低20分を要するため、高齢者にとっては歩行に苦慮している地域である。その上、地域の医療施設や福祉施設へもバスや地下鉄を何度も乗り換えていかなければならず、高齢者や障害者にとってはなおさらのこと、健康な人でさえ歩いて行くのは困難な地理的な環境である。



2 まちの特徴

北汲沢地区連合町内会は、汲沢5丁目〜8丁目(二部他地区)で人口約6000人、世帯数2300世帯である。高齢化率は24.3%と全市平均より高いが、人口の減少はしていない。市平均より高いが、人口の減少はしていない。

「新生会」「富士見」「東明東」「東明西」「六郎丸」の5つの町内会からなり、その一つである富士見町内会は平成19年に50周年を迎えた。昭和32年、戸塚区汲沢町字六郎丸に売り出された分譲地において、21世帯からのスタートであった。当時の状況は次のように記されている。「道路に側溝を入れ、敷地内の木々を伐採しただけの西傾斜の原っぱでした。一度雨が降れば斜面の土は流れて下方に溜まるし、平坦な所は黒土がグチャグチャで歩くことも容易ではな



DATA 北汲沢地区

	人口概数	世帯概数	高齢化率
1985年	6,500人	2,000世帯	7.8%
2000年	6,000人	2,200世帯	16.2%
2010年	6,000人	2,300世帯	24.3%

く、下水の末端処理がまったくなされていないので、道路に水があふれ出る始末でした。……道路、下水の普請には全員の協力が必要でした。加えて電気、水道、ガスの早期敷設等1日も早く「文化生活」の恩恵に浴すべく有志の方の発案により、富士見町内会が発足したわけです(「創立50周年記念誌 ふじみ」より)。いわば、この地区の当初の住民は、都市の基盤的インフラが全く整っていない時代の開拓民と言えようか。この住宅地は「西には富士山、北には丹沢山塊が多摩、秩父の連山と連なり、南には箱根の山々と伊豆半島まで一望する景観」に恵まれ、夏になると五町内会の地域全体で納涼祭を開催し、秋になると運動会、当時は戸塚高校が開校され、そのグラウンドを借用し、和やかに楽しんだ、という。この地で地域の季節ごとの行事をつくりだしたのは、生まれ育った郷里の体験を元に相互の親睦をはかる必要性があったためであろう。開拓民の精神が、地域のまとまりを強め、地域の生活課題に協力して取り組む姿勢を育んだ。ちなみに、この地区に住む住民の居住年数は、30年以上が4割を超え、10年未満は2割である。全市平均では35年以上が16%、10年未満が4割であるから、当初の開拓民の人たちは大部分が住み続けている、と考えられる。

3 地域における福祉活動の 総合化の必要性

北汲沢地区は、平成8年に踊場連合町内会から脱退し、北汲沢連合町内会と北汲沢地区社会福祉協議会を発足させそれぞれの活動を行ってきた。他の地域と同じように、北汲沢地区でも、地域と行政機関との関係は、例えば、

民生委員など担当行政の組織毎に独自に活動しており、また、それとは別に有償・無償の任意のボランティア活動が存在していた。「福祉活動の原点は地域住民である」という原則のもと、「地域組織やボランティア組織を一体化して、地域と行政が相互協力して、地域住民に安心して暮らせる組織づくりを行う」ために、平成21年1月に、「北汲沢地域総合福祉活動委員会」を設立することとなった。その背景として次のような理由があった。

〈わっぱ乃会の送迎支援活動の制約と停滞〉

地理的に駅から遠く丘陵地であるこの地区では、もともと高齢者や障害児を対象とした有償の自家用車での送迎ボランティアの活動（「わっぱ乃会」）が行われていた。年間1,300回にも上る実績を有するこの活動が衰え停滞したのは、「道路運送法第78条の改正」である。自家用車で有償の送迎サービスを続けるためには、NPOなどへの法人化と国交省の認可を受けるといふ、小規模なボランティアグループ

にとつて極めてハードルの高い条件をクリアしなければならぬ。そうしたことから、有償から無償化へ追いやられ、利用者と担い手のニーズとの乖離が大きくなり活動が衰退し、全国的にもボランティアによる送迎支援活動は衰えていくことになる。

〈地域住民の高齢化による福祉ニーズ増大に対応できないボランティア活動〉

この地区は、戸塚区においてボランティア活動が活発なモデル地区であったが、高齢化の進展による外出支援や日常生活支援などの福祉ニーズの増大には、わっぱ乃会など十分対応できない活動の現状があった。

〈活動の現状を打破するための組織の一体化と情報の三元化の必要〉

民生委員・児童委員など行政の担当ごとに独自に活動している活動組織の一体化と、情報の三元化を図り、地域の各活動を有効にネットワークして、増大する福祉ニーズに対応していく体制を構築していく必要と併せて、助成金の効率化を図るためには、二元管理や会計の透明化を図り、助成金の新規導入を図る必要性があった。

以上のような理由から地域活動の連携を強め、福祉活動を総合化するために「総合福祉活動委員会」が発足したのである。

4 北汲沢地域総合福祉活動 委員会の発足と活動

この委員会は、連合町内会を構成する5つの町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、老人クラブなど地域の福祉に関わるボランティア団体が一堂に会して立ち上げた組織であり、オブザーバーとして戸塚区の地域力推進担当と地域ケアプラザのコーディネーターも参加している。企画、立案、広報活動が主な任務であり、実働部隊ではない、としている。

〈アンケートから浮かび上がった

「日常生活支援」と「外出支援」のニーズ〉

委員会は、まず、住民へのアンケート調査を実施し、住民のニーズを把握した（884人、回収率47・7％）。希望する福祉支援のうち最も多かったのは「日常生活支援」の36・7％であり、次いで「外出支援」の25・8％であった。「日常生活支援」は「重いもの等の移動」「簡単な補修作業」「庭の手入れ」などが多い。また「外出支援」はどの年代の人も「医療施設への送迎」が7割から8割と圧倒的に高いニーズであることがわかった。



〈一般社団法人化で外出支援サービスを開始〉

住民の送迎サービスへのニーズが高いことを受けて、委員会は外出支援のサービスの再構築に向けて検討を開始した。改正道路運送法によりNPO法人等法人として認可を受ければ、「福祉有償運送」が可能となっている。法人化せず、道路運送法の制約のもとで活動を細々と行っていたが、区役所の地域力推進担当のアドバイスにより「総合福祉活動委員会」の法人化に向けた準備を進め、関係機関との話し合いを重ねた。その結果、委員会は一般社団法人として認証を獲得し、「福祉有償運送」の認可を受けて外出支援サービスの活動を本格的に展開できることとなった。「福祉有償運送」とは「NPO法人等が要介護者や身体障害者

等の会員に対して、実費の範囲内で、営利とは認められない範囲の対価によって、乗車定員11人未満の自動車を使用して、原則としてドア・ツー・ドアの個別輸送を行うもの」である。関東運輸局神奈川運輸支局から正式認可を受け、団体は、不特定多数を対象としたNPO法人の外出支援とは異なり、北汲沢の5つの自治会町内会が集う地域とその住民であること、利用者は重度の障害者のみでなく、要支援認定者、肢体不自由者、駅や停留所までの歩行困難者も入れるなど、独自性のある地域支援を行うことになった。

利用の仕方は、2,000円分の会員券を購入し、1km100円〜3km300円の送迎を利用できる。各町内会のコーディネーター（町内会長）を通して送迎先、利用日時などの利用申込書を提出し、2回目以降は直接、担い手と連絡調整をする、というシステムである。平成23年の1年間で、4名が47名の利用者を1,924回、距離にして16,320km、東京⇄大阪間を30回も往復した距離となる。

〈日常家事支援活動〉

地域の高齢者や障がいのある人に、自宅内や屋外で日常生活に必要な様々な家事を、「1コイン」でお手伝いする制度である。利用料1回で100円の場合は、「電球・電池の取替」「ゴミ出し」「資源回収物の整理梱包等」、200円では「草むしり、枝きり」「重たい家具の移動」「粗大ゴミの搬出」「買い物物支援、病院の付添い」

など。300円になると「家庭用包丁とき」「行政機関窓口代行手続」などである。高齢夫婦やひとり暮らし高齢者が増える中で、このような日常生活のこまごまとした仕事は、業者に頼めば金額がかさむが、一人ではどうにもならない作業である。ボランティアが2〜3名での協働作業方式で自宅を訪問し、大変喜ばれている、ということだ。

5 活動の持続に向けての課題

行政の補助金に頼ることなく、会員券方式、有償ボランティア方式を取り入れたこの地域は、自立度の高い地域である。しかし、現在、輸送サービスの担い手は、67歳から80歳となり、担い手の高齢化は避けて通れない課題となっている。

また、次の展開に向けて、北汲沢地域総合福祉活動委員会は、近隣の連合町内会を巻き込み、一般社団法人から公益社団法人へとその公益性を高め、利用層の拡大と担い手の幅広い参加をねらっている。このような手づくりの日常生活支援は、高齢化のまちにとってはなくてはならないコミュニティ・インフラなのであり、その持続の仕組みが求められている。